

Archaeological Laboratory, Co., Ltd.

# アルカ通信

ARUKA Newsletter

NO.92

2011.5.1

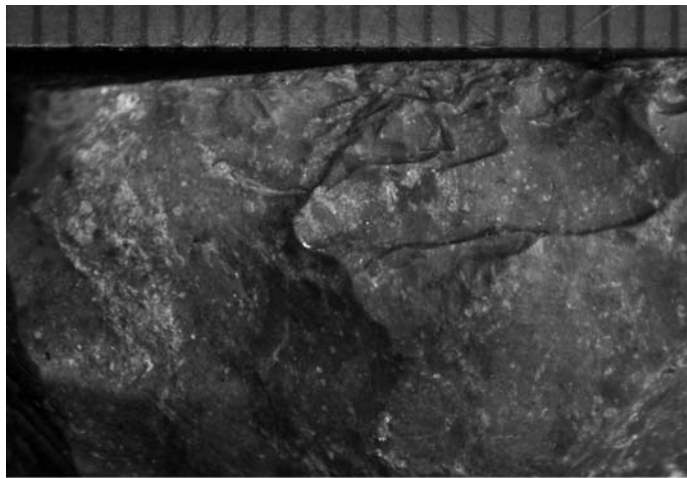
\*考古学研究所(株)アルカは石器と土器の実測・整理・分析を強みにバックアップする企業です。

## 縄文の使用痕

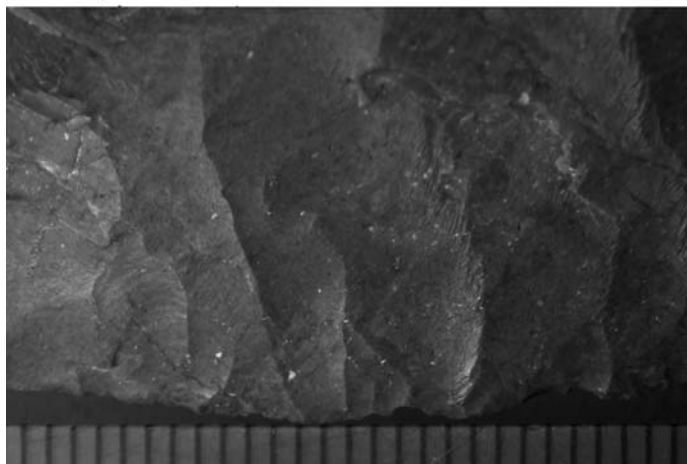
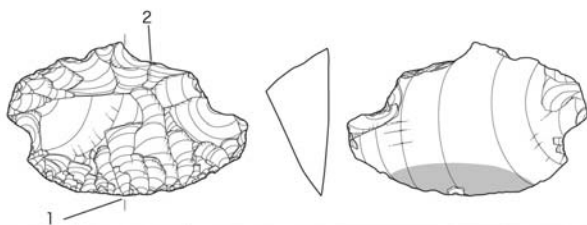
—石器と先史時代の生活がもっと明らかになるために—

### 第18回

## 刃部と整形加工



2



1

写真は茅野嘉雄他2009『米山(2)遺跡VI・宮田館遺跡VII』青森県埋蔵文化財調査報告書第473集(青森県埋蔵文化財調査センター所蔵品。同機関より転載許可をいただいた。)

縄文文化の石器は、石器の刃に応じて二次加工の特徴が異なります。

実測図は、挟りの入った石器です。上下2枚の写真はこの石器の縁辺にみられる剥離面です。下辺(写真1)は平行剥離が、末端フェザーエンドで、内側にまで並んで伸びており、剥離面の厚みもあまりありません。打面側(素材主要剥離面側)から見ると縁辺全体は凹凸が顕著ではありません。一方上辺(写真2)は貝殻状に割れ、末端がヒンジフラクチャーもしくはステップの剥離が階段状に重複しています。打面側から見ると縁辺全体は凹凸が顕著です。そして使用痕分析の結果、下辺のアミのかかっている範囲に使用痕(Aタイプ光沢)が確認されています。

上記のことからこの石器は、刃部と形態整形の加工が異なることがわかります。挟りの加工も加えれば、都合3種類の剥離面で石器の辺が構成されています。

縄文時代早期末から前期初頭に東北地方に分布する松原型石匙があり、左右で加工が異なります。片方の辺は片面加工、もう片方は、小さな打面を作出し、片面加工側の辺と比較して幾分大きな剥離で整形されています。青森県瀧野遺跡、新潟県二軒茶屋遺跡で使用痕分析したところ、片面加工側に使用痕が確認されています。

加工の特徴に関係なく、加工があれば刃部という判断は石器を理解する上で非常に問題が生じます。特にそれが顕著なのが、不定形石器と分類されている一群です。宮城県上深沢遺跡の報告書では、刃部と整形加工については、

### 目次

■縄文の使用痕	刃部と整形加工	高橋 哲 …1	■リレーエッセイ	マイ・フェイバレット・サイト(第85回)	多田 仁 …3
■考古学の履歴書	私の古代学覚え書(12)	桐原 健 …2	■お見舞	.....	4

検討を要するとしていますが、使用痕と剥離の特徴の事例を蓄積すると、使用痕分析を用いなくてもある程度刃部位置は特定できます。

旧石器時代は、主要な器種であるナイフ形石器や彫器は二次加工のない鋭い縁辺を刃部とします。二次加工のある石器は搔器や削器などです。縄文時代になると、刃部を押し剥離・直接打撃などで加工した削器・搔器、石筥、

石匙、打製石斧があらわれます。そしてこの刃部加工は、それぞれの地域・土器文化で異なる可能性があります。次回この点に触れてみたいと思います。

出身地宮城県を中心に各地で大きな震災がありました。東北大学にて縄文研究からこの世界に入ったこともあり、各被災地にも思い出があります。心から被災地の方々のご健康とこれからの生活の幸せをお祈りします。

※巻頭連載は隔月です。今回は再び神村先生です。

## 考古学の履歴書

### 私の古代学覚え書(第12回)

桐原 健

藤森先生の縄文農耕論は昭和25年だが私が接したのは翌年の「大化以前の歴史と考古学」(河出日本歴史講座)だった。大学に入った時麻生優さんがじろっと見て「君も縄文農耕論者かね」、「ハイ」との答えに「フン」と鼻を鳴らされた。「違う空気もあるらしいな」とその時に感じた。

縄文中期に石鏃が減り打製石斧が増える。土偶や石棒が出現することは認めるが何故に陸耕の発生が中部内陸の八ヶ岳山麓なのか。中期に成立したならば何故に後期には続かないのか呈度の批判で「キリ先生は始めから縄文農耕には批判的で」と先生が云うほど旗幟を鮮明にしてはいない。「我々は考古学者だ。米や麦を捜すことではなく、遺跡・遺物を通して農耕社会的原文化機構を追求することではないだろうか」の提言には諸手を挙げての賛同で、36年の日考協総会では折角1時間もの時間が組まれていたのにこの点の論議の起らなかったことに不満を抱いた。先生は40年刊行の『井戸尻』報告で縄文農耕論の総括を考えている。38年11月の構想で「中期縄文文化の農耕問題」15枚、オーバーすれば「結論」の10枚をあてる。Z旗があがって原稿メ切りは39年7月末と決ったが、この250日間に農耕論に打撃を与える事件がおきている。

39年の1月にユリウス・リップスの『生活文化の発生』が刊行された。リップスの専門分野は収穫民の研究で22年には『事物の起源』をあらわしているが3年後には没。永峯光一さんはリップスの所説を一部援用しながら39年に「勝坂期をめぐる原始農耕存否問題の検討」を発表している。

収穫民には生活カレンダーがあって「種子を蒔かないくせに農耕民族と全く同じ方法で収穫する」「生産経済の段階ではないが原始農耕民族と同じ文化を持っている」が特徴とされている。

狩猟採集民と農耕民の間に収穫民を置くとすると縄文

農耕論は見直さざるを得なくなり、どうしても栽培植物、できれば穀物の存在を遺構・遺物の上に見出さなければならぬ。

10月の24日は日考協の群馬大会、1週間後は長野県考古学会大会で「縄文中期文化シンポジウム」、先生の総括は「雑木林の文化と野火の問題」で、今までの論旨とは大きく違っている。この後、ユリウスリップスの名の出たことで先生はキレた。40年の7月に刊行された『井戸尻』第6章の「中期縄文文化論」は纏れた糸巻、闊葉樹林地帯、植物による生活、貯蔵ということ、野火、土からのわく新しい命、雑木林の生活のおわりの7節からなっていて、読者によってはトーンが下つたとも受け取られかねない。

43年の安部公房は作品の中で収穫民につき適確な説明をしている。作家においてもしかり、リップスの学説が常識として通用している。45年に先生は38年以降のレポートに書き下ろしの一編を加えた『縄文農耕』をあらわしている。

先生が亡くなって1年、諏訪では大規模な発掘が始まり縄文遺跡からエゴマの炭化種子が検出された。私自身のことを言えば諏訪を去ってから40年、その間に「八ヶ岳山麓遺跡群と縄文農耕論」を書いて自分なりの区切りをつけている。

先生のこと、脈絡もなく記したい。中尾佐助氏の照葉樹林文化がスポットライトを浴びていた時、花粉分析では

検出は無理だろうと言いつつも栽培植物にサトイモを挙げ、大きな樽形の有孔鏝付土器を貯蔵具に当ててい

#### 略歴

昭和8年1月3日	長野県松本市に生まれる
昭和20年4月	長野県立松本第二中学校入学
昭和26年3月	長野県松本県ヶ丘高校卒業
昭和26年4月	國學院大学文学部史学科入学
昭和30年3月	同校史学科卒業(日本史専攻)
昭和30年4月	長野県高等学校教諭となる
平成5年3月	定年退職
(38年の間、14年間は県教育委員会文化課勤務)	
平成6年4月	信州豊南短大非常勤講師
平成21年3月	同大学非常勤講師 辞任

た。国分直一先生の検出物がウキアガラだったの報道には期待と落胆があった。イモに比べるとドングリはやや軽く扱われているが河西清光さんにドングリ処理の民俗例を報告させている。

前後するが昭和38年4月の諏訪考古学研究所の例会で先生は御自身の農耕論を話された。31年に芹沢長介

さんは『日本考古学講座』で縄文農耕論を否定している。その説に反論を加えながら最後のところで「これからの長い将来を考えれば縄文農耕論の存在をぶつ方が絶対に有利なんだ。可能性がある。芹沢はそんなこと百も承知なので、承知の上で現状では否定と発言している。芹沢は偉い、研究者として見習うべきだ。」

## リレーエッセイ

### マイ・フェイバレット・サイト 85

#### 犬除遺跡 ～ 愛媛県宇和島市

多田 仁

西南四国の山間部に位置し、愛媛県と高知県の県境に展開する御槇盆地には、愛媛県側の宇和海へ流れる岩松川と、高知県側の宿毛湾へ流れる松田川との分水嶺があり、盆地内にはこれら河川沿いに形成された河岸段丘が発達している。この地域は古くから先学による地道な踏査活動によって考古資料の存在が知られてきた研究地であり、1990年代以降の学術・行政機関による調査がさらなる考古学的成果を支えてきた経緯もある。

御槇盆地における考古学的発見とその報告は長山源雄氏によるものが初めであり、1930年に「南伊豫に於ける石器と土器」(『人類学雑誌』45-2)で報告された「御槇村大字御内の山中」採集の磨製石斧がある。その後、1979年に木村剛朗氏が『四国西南旧石器・縄文期の新発見遺跡と遺物』(1979)で池ノ岡遺跡採集の石器を報告し、後期旧石器時代のナイフ形石器やスクレイパーの存在を明らかにしている。その後も木村氏は『四国西南沿海部の先史文化』(1995)や『南四国の後期旧石器文化研究』(2003)の著書で本地域の考古資料を報告し、その基礎データを蓄積する試みが続けられてきた。

木村氏の実践した採集資料の蓄積による調査と研究は、一面では制約された評価に留まることも否めないが、氏の著書『姫島産黒曜石の交易』(1978)で築かれた姫島産黒曜石供給における動態の理論は、後に実施された中駄場遺跡の調査で、その妥当性が評価される結果に繋がっている。また、池ノ岡遺跡における船野型細石刃核の発見は、九州との接点を見出したばかりでなく、本地域における細石刃石器群の研究に強く影響していることは否定できない。まさに御槇盆地は在野研究者の地道な研究に支えられてきたフィールドであり、それだけに体系づけられた調査と研究が切望されていたのである。

これに続くように別府大学や行政機関による池ノ岡遺跡(1991年)、影平遺跡(1992年)、中駄場遺跡(1997年)、犬除遺跡(1998・1999年)の各遺跡で発掘調査が



犬除遺跡の配石墓(愛媛県埋蔵文化財センター提供)

実施され、これら大規模な調査が考古資料をさらに増大させた。特に圃場整備中に発見されたことが契機となり、津島町教育委員会が緊急の発掘調査を実施した犬除遺跡1次調査(600㎡)では、縄文時代後期の約4,000点にも及び大量の遺物が出土し、その考古学成果が注目されるようになる。また、これに続いて行われた2次調査(2,000㎡)では縄文時代早期・前期・後期におよぶ約25,000点もの遺物が確認され、本遺跡は西南四国を代表する縄文時代遺跡として評価を得たことに繋がった。

こうした御槇盆地における調査研究の経緯の中で、幸いなことに筆者は犬除遺跡2次調査に関わることができたのである。調査は1次調査で予想されたように大量の遺物が確認され、主に縄文時代早期と後期の様相が調査の進行とともに次第に明らかとなった。

まず縄文時代早期では、各種の遺物に伴って集石遺構が確認されている。これは約60点の安山岩や花崗岩などの礫で構成されたもので、約1.0mの範囲に密集し、集積礫の下部には受熱した地床面が確認できている。集石遺構の発見は、西南四国では十川駄場崎遺跡に次ぐ一つの大きな成果となった。

縄文時代後期では、片粕式土器や伊吹町式土器と呼ばれ

る西南四国を代表する土器型式が認められた。また、石鏃、スクレイパー、石斧などの各種石器類と共に、大量の剥片や石核も出土している。さらに後期段階の遺構としては配石墓の検出が特筆すべきことであろう。

この配石墓は長径約1.7m、短径約1.1mの楕円形土坑に自然石がコの字状に配置されたもので、墓坑の上面付近には標石と考えられる礫も確認された。さらに遺構の底面は平坦に整えられており、墓坑内からはスクレイパーが出土している。愛媛県内における配石墓の検出は江口貝塚に続く2例目であり、当時の墓制を論証する上での好資料となった。また、この配石墓の周囲には楕円形や円形の土坑があり、これらも配石墓と同様に比較的安定した底面を持つ形態であった。配石墓と共に平面的に集中して検出されたことから、これらも積極的にみれば墓坑として機能した可能性は捨

てきれないだろう。

犬除遺跡では早期の集石遺構や後期の配石墓など、西南四国では希少な遺構の類例増加を実現したが、さらに注意しておく事象としては遺物の大量出土であろう。2次調査では約25,000点の遺物出土が認められたが、このうち約半数以上が剥片や石核等の石器類である。これは付近にある松田川流域で産出する頁岩が、石器石材として恒常的に使用された結果と推察され、本遺跡が当時の石器石材発信地であった可能性を考えるに至った。

調査では新たな発見も増加したと同時に、残された課題も山積みとなった。先学達の成果を未消化のまま調査に着手したのではと心配しているが、筆者にとって西南四国の縄文時代を考えるヒントを得た忘れられない調査となった。  
※次回のマイ・フェイスレット・サイトは中野良一さんです。

## 2011.3.11東日本大震災で被災されました方々に 心よりお見舞い申し上げます。

この頁に掲載されております「考古学者の書棚」は、現在、岩手県から宮城県に紹介の輪がつながっているところでした。

今回、執筆を予定されていた方は幸い御無事でしたが、西暦1900年以降に世界で起こった地震の4番目に入ってしまう大地震と、1000年に1回と言われる未曾有の大津波のため、「執筆断念」とご連絡をいただきました。大変な時にお気を煩わせてしまい恐縮いたしました。

御友人を亡くされたという方もあり、また、被災地から引き揚げてきた直後になくなられた方があり、今回の被害の大きさには言語に絶するものがございます。亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたします。

3月18日には当通信88号～90号を発送いたしました。茨城以北の県の方々には発送ができませんでした。

通常発送に使わせていただいておりますメール便もそろそろ取扱地域が復活してきた模様ですが、もう少々お待ちいただきますようお願いいたします。

未筆ではございますが、皆さまのご健康と被災地域の1日も早いご復興をお祈りしております。

平成23年4月8日

アルカ通信編集長  
角張 淳一 拝

アルカ通信 No.92

発行日 2011年5月1日  
発行人 角張淳一  
発行所 考古学研究所(株)アルカ 〒384-0801 長野県小諸市甲49-15  
TEL 0267-25-0299 aruka@aruka.co.jp URL : http://www.aruka.co.jp